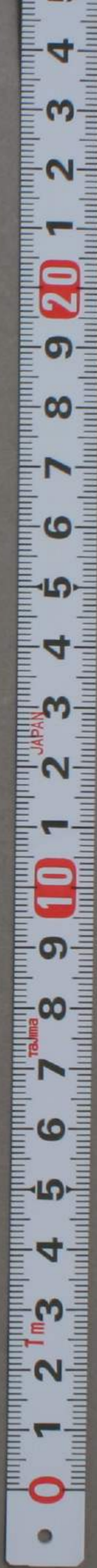


博物教授書

片山淳吉解

三

2800  
3  
= 1



門三  
號2800  
卷3

明治九年七月

田中芳男 撰  
片山淳吉 參解

270  
50  
6

卷三

文部新刊 小學懸圖 博物教授書

東京書肆 錦森堂發兌

早稲田大學圖書館  
冊27.3.1  
藏書

獸類一覽

清原志人 頓

博物教授書

卷之三

天孫館

博物學概論 卷之三

獸類一覽總論 動物第一

哺乳獸ハ、有脊動物ノ最高階ニ位シ、骨骸堅實ニシテ、自在ニ行走シ、或ハ水ニ游泳ス、而シテ裸體ノモノアリト雖、毛多クハ毛ヲ以テ被ヒ、或ハ甲ヲ以テ被フ、肺アリテ呼吸シ、其兒ニ乳哺ス、人類ヲ第一等トシテ、之ヲ十二目ニ分ツト雖、凡、今茲ニ人類ヲ省畧シテ、十一目トナス、抑獸類ハ、本邦所産ノ者甚少シ、因テ他國産ト雖、凡、牛、馬、猫、豚ノ如ク、古昔ヨリ畜養スルモノ、及ビ他邦ヨリ屢舶齋マルモノ、或ハ未タ舶來セスト雖、凡、久シク人

口ニ鱸炙スルコト等ヲ舉テ、畧説ヲ附シ、訓蒙ノ一助トナス

明治六年第一月 文部省

田中芳男 撰  
服部雪齋 畫  
久保弘道 校

博物學概論 卷之三 天保館

附言

○獸類一覽以下ノ軸ハ各選者ノ略説アリテ今復注解ヲ要セズ然レモ卷軸大ニシテ甚提攜ニ便ナラズ故之ヲ小冊子トナサバ其便益蓋三アリ一ハ校中後坐ノ生ハ其圖ノ詳ナルヲ見ル能ハズ是ヲ以テ各自ニ冊子ヲ授クルハ目前ニ之ヲ見ルノ便アリ一ハ肄業ノ餘暇學友相集リ之ヲ開テ問答シルニ覺ルノ益アリ一ハ携歸リテ父兄ニ示シ家庭ノ訓導ヲ受テ温習スルノ便アリ然レハ則戯レテ覺エ樂ミテ知リ速ニ暗記スルニ至レバ教員ノ勞ヲ省ク恐クハ少カラズ是ニ一舉三得ナリ故ニ此學ヲ起スモ亦宜シカラズヤ



第

四手類 即 獼猴類

四肢共ニ手ニシテ足ナキ者

サル 獼猴

諸國ノ山中



ニ多シ人々  
レヲ養ヒテ枝藝ヲ教フ  
然レドモ馴ル、ナシ

博物叢書

卷之三

三 天 録 第

シヤウ

蘇門答刺及

波羅ニ産ス

大人ニ等シ

此獸言語スルノ機カナシ



テナガザル

印度南海諸

島ノ産ニシ

テ手長ク立

テ地ニ達ス性寂温茶ナリ



アフリカ、南  
亞細亞、亞非利加、又亞米利加ニ  
産ス、其種類甚多シ、尾ニカア  
モノトナキモノトアリ、今コ  
ニ圖スルモノハカナキモノナリ、



第二

翅手類 即 蝙蝠類

其手指長ク伸テ膜  
リ翅ノ形ヲナス者



カハホリ

蝙蝠

アカカハホリ

キクカシラ  
カハホリ

オホカハホリ

琉球及小笠原島等ノ南



好テ果  
實ヲ食ス

ムグラセチ 鼯鼠  
土中ニ在リテ蚯蚓  
其他ノ蟲ヲ食シ植  
物ノ根ヲ掘リテ大  
ニ田圃ノ害ヲナス



第三

殺生類ノ一 食蟲部

大  
上中ニ棲ミテ蟲類ヲ  
食フ者

チ子バミ 鼯鼠  
大小數種アリ皆山  
地ノ土中ニ棲ミ其  
性鼯鼠ノ如シ、地  
ニ出レバ忽チ死ス  
故ニ一名ミスト云フ



ハリネズミ 僧  
歐羅巴ニ多ク又支那ニモ産ス  
身ノ毛皆空管ノ利状ヲナシテ  
直立ス他獸ニ襲ハル、トキハ  
身ヲ縮メテ球ノ如クス



第三

殺生類ニ食肉部

他獸ヲ殺シテ食餌ト  
トリス者

クマ 熊  
深山ニ棲ム其膽  
ヲ燕膽ト稱健  
胃ノ効アリ  
大賞シテ藥用ス



アカウマ 雌  
北海道ニ多  
大ナル馬ヲ負  
ヒ去ルト云  
性粗暴ニシ人ニ害アリ



ライオン 貂鼠 常  
深山ニ棲ム至テ  
輕捷ナリ雷鳴ノ時  
驚テ村里ニ出ルヲアリ  
人誤認テ雷獸ト呼ブ



アナグマ 獾  
山中ニ穴居ス晝  
ハ蟄シ夜出テ、  
食ヲ求ム殊ニ果  
實ヲ好マリ



テン 黄鼬  
山地ノ堂舎  
又古屋ニ棲ム  
老タルモノハ  
全身淡黄色ナリ



イタチ 鼬鼠  
人家ニ棲ミテ鼠  
又鳥等ヲ咬ミ其  
血ヲ吸フ、糞ニ  
惡臭アリ、



カハラソ 水獺  
水ヲ泳ルヲ自  
レテ池沼ノ  
ス毛直立ノ  
故其毛皮禱ト



ラツコ 海獺  
北海道ノ海岸殊獵  
虎島ニ多シ其毛皮  
水獺ニ似テ殊柔  
軟ナレバ價亦十倍  
セリ



イヌ 狗  
人家ニ馴養シ  
テ夜ヲ守ルニ  
又獵用ニ供スル  
等大ニ益ヲナス



ヤマイヌ 豺  
深山ニ棲ム猛獸  
ニノ他獸ヲ殘  
食ス、飢ニ迫  
レハ人ヲモ害ス、



キツネ 狐  
人家ニ近キ山  
林ニ穴居シ却  
テ深山ニ棲  
マス、夜出テ物ヲ食フ、



タヌキ 狸  
狐ノ類ニシテ  
其性亦能ク相  
似タリ



ネコ 猫  
人家ニ馴養ス  
ル者ニノ鼠ヲ捕  
食シ人ニ益アリ  
ト雖盜竊ノ性ナルヲ免レズ



ヘウ豹

白豹ハ亞細亞ノ東南ニ産ス其斑ハ其足趾ノ痕ニ同ジ赤豹ハ亞非利加ニ産ス白豹ヨリ大ニシテ其斑ヤ、環状ヲナセ、爰ニ圖スルモノ即是ナリ、



トラ 虎

猫類中寂モ

大ナル

者ニシテ

其色毛

皮甚タ美ナリ

又白虎ハ稀ニ見ルコトアリ、



シ、獅

性至テ敏捷

シテ巧ニ生物

ヲ捕食ス雄

ニハ鬣アリ

ナシ、雌ニハ



第三

殺生類ノ三 鱈脚部

其足ノ形鱈ノ如ク水

ヲ游泳スル者

ヲツトヒテ 鰮脚獸

北海ニ棲ム獸ノリ

漢人大ニ滋補

ノ効アルコト

ヲ稱シテ鰮脚劑ノ名アリ



アシカ 海驢

諸國ノ海ニ産スト

雖モ九州韋鹿島

最著名ナリ

此肉味アリシク食ニ堪ヘス、



アガラシ 海豹

北海ニ棲ム其毛

冬月ハ斑點

アリテ大ニ

美ナリ、





海馬

セイウチ 海馬

樺太州ノ極北ニ棲ム其牙長大潔白  
ニシテ象牙ニ似タリ故ニ工人ユレ  
テ彫刻シテ象牙ニ擬シ水象牙ト稱  
ス



第四

齧齒類

齧ノ如キ齒アリテ他  
物ヲ咬齧スル者

常ニ樹上ニ棲シテ果實ヲ食

フ殊ニ胡桃、栗等

ヲ好メテ食ス

栗鼠



モシングワ、ムサ、ヒ、相似タ  
リ肉翅アリテ飛ブコト自在  
ナルモノナリ

ムサ、ヒ



鼯鼠

モシングワ



ヲカツギ 鼯鼠

栗鼠類ノ極大

ナル者ニシテ

亦前ノ二種ニ

似タリ、肉翅アリテ飛ブ、



シマネズミ

北海道ニ産ス

栗鼠ノ類ニノ

能飛フ然レモ其巢ハ

土中ニ營ミテ果實ヲ貯フ、



花金鼠

博物文苑

八天及天窟

ネズミ 鼠

人家ニ棲ミテ器物ヲ齧リ食物ヲ  
竊ミ大ニ人ニ害アリ、又黒色ノモ  
ノアリ、クマネズミト云フ、白色ノ  
者ハ常ニ人ノ畜フ所ニシテ能ク馴ル



ハツカネズミ 鼯鼠

人ノ害ヲナスコト鼠ニ次ク、其體  
小ク成テ以テ之ヲ防クハ頗ル難シ、  
又白色雜駁ノ者アリ、ハツカネズミ  
ト云フ、人ノ之ヲ箱ノ中ニ養ヒ種々ノ小機



ヤマネズミ

諸國ノ高山ニ産ス、其大ク尋常ノ鼠  
銀ト鼯鼠トノ中間ナリ、頭ノ形ヲ見  
鼠ヨリモ圓シ、冬月ニ食中ニ蟄ス



チンギクネズミ 俗マルモトト稱ス

數年前ニ舶來スト雖モ其家モ多ク來リ  
レハ近年ノコナリ、此獸敢テ賞スベキ  
能ナレト雖モ、毛色ノ種々ニシテ美ナリ  
ト性狡猾ナラサルヲ以テ人ノ之ヲ愛新



各地ノ原野ニ産  
性至怯懦ナリ北  
方雪多キ地ニ産  
スル者ハ冬月白色ニ變ス



人家ニ畜フ者  
其毛色  
ノ美ナルヲ以テ  
人ニ愛セラル



ヤマアラレ 豪猪

波那西洋等ニ産ス、隻舶來ニテ觀場  
出テ其形至テ猛ト見ルニ下ニ其性  
静ナリ又晝ニ静ナリ夜ハ注  
發ナリ



第五

無齒類

凡齒門齒又牙齒ナク成ハ  
齧齒ナト者

南亞墨利加  
産ス口至テ小ク  
舌長ニ好テ蟻ヲ  
蝶ノ食ス



センザンカウ 龍魚

全身ニ堅キ鱗甲アリ他獸ニ襲ハ  
ルトトキハ身ヲ縮ムルコト蝟ノ  
如シ其口及ビ食餌ハ食蟻獸同



第六

雙蹄類 翻芻類

一度食ビレ草ヲ再出シ  
嚙ミ食フ、此類ノ肉ニハ  
寂人間ノ用ヲナス者多シ

ジャカウジウ 麝獸

北海道門北ヨリ  
産ス、此西伯里  
ノ地ニ多シ  
其香ヲ賞ス  
ルハ人ノ能ク知ル所ナリ



ラクダ

亞刺伯

造ノ産ニ  
ノ能重ク  
負フ背ヒノ  
肉鞞ニツアル者アリ

キリン 麒麟

亞非利加産  
身ニ  
斑アリ  
其甚美ナリ、頸長ク、角ヲ卷  
フ樹枝ヲ折リ、樹葉ヲ食ス



駱駝

鹿

諸國ノ  
山野ニ  
棲ニ其皮ハ革  
ニ製シテ最善ク其  
角ハ彫刻ノ用ニ充ツベシ



北海

道ニ

産スル鹿類ノ  
大ナル者ニノ士  
人雪中此獸ヲノ橇ヲ牽シム

トナカイ 馴鹿



カモシカ スミツラシハ名アリ

諸國ノ高山ニ棲ム羚羊ノ屬ナリ  
其肉味美ナリ、皮種トナスベシ  
カモシカノ古言ナリト云ス



ヤギ 山羊

肉美ニシテ食フヘ  
シ毛ハ毛織  
ヲ織ルベシ  
羊ニ次クノ用アル者ナリ



ヒツジ 羊

畜養シテ毳毛ヲ  
苴リ羅紗其他ノ  
毛布ヲ織ルニ最  
要用ノ獸ナリ



ウシ 牛

牽馱ノ用アルノミナラス肉ト乳汁  
トハ人間ノ食用ニ宜シク且養ヒト  
ナリ皮ハ革ニ製スヘク角ハ彫刻ニ  
用アルベシ



スイキウ 水牛

野生ノ牛ニシテ形チ甚ダ大ナリ  
長大ナル角アリ彫刻ノ用ニ充ツ  
ベシ



第七

單蹄類

足ニ單一ノ蹄アリテ  
乗駕ノ用ニ適スル者

ウマ

乗駕ノ用

ニ於テ最上ノ  
獸ナルヲ人ノ  
知ル所ナリ



ウサギウマ

形小ナリト雖ニ馬ニ次グノ用アリ  
其馬ト交リ生ズルノ子ハ騾馬ト稱  
牽馱ノ用ニ供シテ寂モ強シ



ウレウマ

薩州種子島

ニ産スル一種ノ  
馬ニシテ尋常ノ



馬ヨリモ小ナリ、水中

シマウマ 斑驢

亞非利加ニ産

スル野生ノ馬

ニノ性暴悍ナ

リ乗駕ノ用ニ供



第八

多蹄類 一名 厚皮類

其形體大ニシテ大抵

馴養スベキ者

野猪

山林ニ棲ミ夜間

出行田圃ノ害ヲ

ナス村民ノ寂モ

患フル歎ナリ



豚

畜養シテ食餌ニ供ス此獸汚穢ノ食物

ヲ厭ハズ土ノ外ハ食セサルモノナシ

ト云フベシ性甚ダ蠢愚ナリ



ガウ 象

天竺及ビ亞弗利加ニ産ス陸地生獸ノ  
最大ナルモノニシテ性柔馴ナリ知感  
アルコト百獸ニ超ユ其牙用ヲナスコ  
トハ衆人ノ知ル所ナリ



印度地方ニ産スル猛獸ニシテ其形カシ

稍ヤ牛ニ似タリ皮厚堅ニシテ傷則固ク  
ベカラズ鼻上ニ一角アリ世ニカレ  
ヲ犀角ト稱ス



第九

游水類即鯨魚類

海中ニ棲ム獸ニシテ多クハ陸  
ニ上ルコトナク其形甚ク魚ニ似  
タリ故ニ人誤テ魚類ト思ヘリ

近海ニ産スル鯨類ノ小ナル  
モノニシテ其眼  
至テ小ニ  
スナメリ



イルカ 海豚

此類數種アリ其形寂モ魚ニ似タリ  
人之ヲ捕フル時ハ悲鳴ス是魚類ナ  
ラサルノ證ナリ



サカマタ一名 シヤチ

海豚ニ似テ大ナリ性猛ク其齒ハ  
白色堅剛ナレバ彫刻ニ用ヒ又入  
齒ノ材トナスベシ



マッコクヂラ

其形大ニシテ鯨ニ似タリ然レドモ  
鯨ノ如ク口内ニ鬚ナクシテ齒アリ  
是ト鯨ト異ナル所ナリ



アヲウニカイル 一角

亞美利加ト歐羅巴トノ間ナル北  
海ニ産スル海獸ニシテ上顎ニ二小角  
様ノ牙アリ然レドモ其ハ甚短ケレハ  
一角ノ名ヲ得タリ其牙質象牙ニ似テ上好ナリ



クヂラ 鯨魚

海中ニ産スル大獸ニシテ數種アリ  
此圖ハセミクヂラト稱スルモノニ  
シテ此類皆口内ニ齒ナク鯨鬚ト稱  
スル者アリ人此鬚ヲ以テ種々ノ器具ヲ製ス





第十

袋獸類

腹ノ外ニ袋状ノ皮又ハ囊積テルヲ以テ此類ノ微トス全形ハ甚ク齧齒類ニ近シ

ゲンクリユ 袋鼠 更格盧 博物新編

澳大利産ノ奇獸ニシテ尾長カラニ下地幼児ヲ袋中ニ入レテ乳哺ス  
マ袋獸中最大ナルモノナリ



第十一

鳥嘴類

其喙ノ形チ鳥嘴ノ如ク異形ナリ此類甚ク少シ

カモノハシ 鴨嘴獸

澳大利産ノ奇獸ニシテ其喙恰モ鴨ノ喙ノ如ク鼻孔唯一アルノニシテ亦鳥ノ如シ能ク水中ニ泳ス

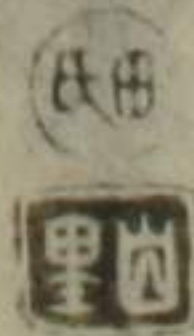


博物類抄書 卷之三 鳥類

# 鳥類一

## 陸

## 鳥類



鳥類一覽總論

動物第二階位

鳥類ハ、有脊動物ノ第二階ニ位リ、皆卵生ニシテ、其血赤色温暖全體羽毛ヲ被以、三翅ニ脚ニシテ、堅硬ナル嘴アリ、以テ食餌ヲ啄ムニ便ス、指ハ其數四ヲ以テ常トスレド、或ハ三指、又稀ニハ二指ノモノアリ、下部ニハ糞孔唯一箇アルノミ、多クハ氣中ニ飛翔スト雖モ、或ハ唯疾走スル者アリ、或ハ水ニ游泳スル者アリ、其餌ハ、動物ヲ食フアリ、植物ヲ食フアリ、食ノ消化ハ、獸ニ比スレバ速ナリト雖モ、鷲鳥類ハ、能ク饑餓ニ堪ル者ナリ。

博物類抄書

卷之三

鳥類

鳥類甚多、人之ヲ食用ニ供シ、或ハ之ヲ愛玩ス  
先哲嘗テ其類ヲ大別シテ七目ト爲セリ、今茲ニ  
中外ノ産ヲ論セス、其著明ナル者若干ヲ舉テ、畧  
説ヲ附シ、以テ童蒙博識ノ一助ニ供ス、  
下ニ圖スル大小ハ、其區郭内ニ隨意ニ充ツルモ  
以テシテ、之ヲ比例スルニ、大ニ異ル者多シ、看者  
之ヲ察セ、其ノ以テ食用ニ供スルニ、野ニ出ル、其  
其明治八年九月、田中芳男、選  
鳥類ニ加藤竹齋 畫

# 文部省

## 第一目

### 食肉類

即鷲鳥類

顔面勇威アリ、テカ強ク、嘴瓜銳利ニシテ、毛羽密生ス、他ノ  
動物又ハ屍肉ヲ食ス、晝間食ヲ求ムルアリ、夜間食ヲ求ム  
ルアリ

オホタカ 蒼鷹

此類數種アリ、皆  
他鳥ヲ捕食  
ス故ニ之  
ヲ遊獵  
ノ用ニ供スル人ノ知ル所ナリ



トビ 鳶

隨地ニ産シテ、殊ニ市井ニ多  
シ好テ  
敗棄セ  
ル魚肉ヲ食ス



鳥類考 卷之三

ワシ 鷲

諸國ノ深山  
又海邊  
=棲ム  
殊ニ北海  
道ニ多ク産ス其力最強



ミ、ヅク 角鴟

此鳥ハ鴟鴞  
ト同ク夜  
間捕食ノ者ニテ晝  
間ハ樹木ノ朽穴及ヒ枝間等ニ隠ル



コサギ 鷲

常ニ海邊ニ  
アリテ魚ヲ捕  
リ食フ其貯蓄セ  
ル魚ヲ鷲ノ縮ト稱ス



フクロフ 鴟鴞

性甚角鴟ニ  
似タリ其  
聲喚フガ  
如シ故ニ人之ヲ忌ム養テ馴レ易シ



第二目

縁水類

脚ノ力強キ一鷲鳥類ニ亞ク其指前後各ニ指ニシテ攀登  
又歩行ニ便ス諸樹ノ蠹蟲或ハ果實ヲ啄ム此類嚙ル機關  
ナレト雖トモ一種人語ヲナス類アリ

インコ 鸚哥

豪州等熱帶地方ノ産ニシテ大小數  
種アリ性別ニ易シ又其毛羽ニ各種  
美麗ノ色ヲ備フルヲ以テ人ニ養  
愛玩セララル



鳥類考 卷之三

十九 天保館

性質產地共ニ

鸚哥ニ同シ  
唯身多ハ  
大ニシテ白  
色ナルヲ常トス  
養テ人語ヲナサシムベシ



アウム 鸚鵡

ホト、ギス 杜鵑 諸國ノ

山地ニ棲ム又東京ニ多  
シ首夏ノ頃飛鳴ス其  
卵ヲ柴鵲領ノ巢ノ  
中ニ産シ彼ヲシテ養ハシム



キツ、キ

山林ニ棲

ニ諸樹ノ蟲

蟲ヲ啄ム嘴ニ

カアリ品類多シ

啄木鳥



此ニ画ク所ハ  
アフラケ  
ナリ

シヒレンテウ

深山ニ産シテ村里へ出ル

ナシ其聲

慈悲心ト

喚ブガ如

シ故ニ此名アリ



第三日

唱類

隨地ニ産シ其種類ノ多キ一他ノ六

科由過以性多々ハ群飛ヲ好ム又巢ヲ營ム一最巧ナル者  
多シ又時アリテ来リ時アリテ去ル者アリ穀果小蟲或ハ  
動物ノ屍肉等ヲ食フ此類形小ニノ聲音清明ナル者多シ

ソバノ 燕

春来リ秋去ル

尋常ノ者ハ人家ノ

檐ニ泥ヲ以テ巢

ヲ營ム毛ノナリ



セキレイ

水邊ニ歩シ

リ食フ其尾ヲ搖

カスニ因テ名

白ト黄ノ二種アリ

鶺鴒

小蟲ヲ捕



カスヒトリ 蚊母鳥

夜間ノ鳥ニシテ薄暮ヨリ出テ食ヲ  
求ム其食スルモノハ小蟲ニシテ殊  
ニ多ク蚊ヲ食フ故ニ此名アリ



キバシリ 小テウヒシウケヒス 鶯

形雀ヨリ稍小ナリ  
自由ニ樹幹ニ攀  
登シ小蟲ヲ啄ム



往年ヨリ屢船齋  
アリ其聲清亮  
シテ機ヲ織ル  
カ如シ



ツグミ

毎秋多ク群ヲナレ渡  
リ来ル此類數多シ其  
中「クロツグミ」ト稱スル者  
ハ能ク諸鳥ノ音ヲナス



ウグヒス

藪林ニ巢ヲ營  
シ小蟲等ヲ食フ立  
春ノ候ヨリ聲ヲ  
曳テ囀ル人之ヲ愛レテ籠養ス



紫鷓領

コマドリ

深山ニ産ス性寒ニ  
耐フ其聲響ヲ鳴ス  
カ如シ故ニ此  
名アリ



キクイタバキ

頭ニ黄毛アリ菊花ヲ  
戴クガ如シ秋ノ未白頰鳥ヒ  
ガラ等ト共ニ渡リ来ル至テ  
小鳥ナリ好テ杉ノ實ヲ食フ



ミソサ、ギ 鷓鴣

形甚ダ小キ鳥ニシテ冬月ニ来リ春月ニ  
モリテ美聲ヲ發シテ轉ル其巢ハ深山ノ  
絶崖ニ作ル圓クシテ一孔アリ



モズ 伯勞

小鳥又蟲ヲ捕リ食フ又蟲蛙等ヲ  
樹刺ニ貫キ貯テ非常ノ食ニ備フ  
人之ヲ「モズノクサダキ」又「モズノ  
ハリツケト云フ



秋ノ末

渡リ来ル

其聲美

モテ毛色

亦美麗ナリ



秋ノ末群フ

「カ」ハ「レ」ノカ

ヨリ頗々小ナ

リ皆養ヒテ

馴シムベシ

渡リ来ル



告天子

原野ニ棲ニ春

月地上ニ巢ヲ

營之高空ニ飛鳥ス其

聲清亮ナレハ人亦之ヲ籠養ス



ヤマカヲ

深山ニ産シ

立秋ノ頃ヨリ

群飛シ来ル人之

ヲ馴養シテ技藝ヲ習ハシム



原野ニ棲ミテ巢ヲ  
麥隴ノ間ニ營ム春  
月ヨリ轉ル然レトモ  
人之ヲ愛玩ス



秋ノ頃ヨ  
リ多ク群飛ニ来ル鳴  
聲ホ、ジロ又、  
ニ以タリ春ニ至レハ  
轉ル聲亦ホウ、  
同



イスカカ 交喙

アカイスカカ、アライスカカノ二種  
アリ共ニ秋末ニ渡リ来ル其喙  
近ニ齧齧スルニ因リ古来ヨリ  
該ニ舉テ人ノ知ル所ナリ



ニフノイスマメ

黄雀

其形稍  
長ク臭  
氣アリ



其性  
隨地ニアリテ  
人ノ能ク知ル  
所ナリ



シノ 蠟嘴鳥

冬月渡リ来ル嘴大ニシテカアリ  
其形燕鷹ニ似テ稍小サク羽ノ色  
似テ美テラズ





イカ

鷹

冬月渡り来ル其聲月日星ト云フカ如シ  
又之ヲ籠養シテ豆粒ヲ與フル久  
シク嘴中ニ廻轉セシム故ニ  
「マメマハシ」ノ名アリ



二種共ニ

秋頃

来ル其

聲愛ス



冬月渡り来ル  
其聲嘯クカ如シ人之ヲ養ヒ  
テ其聲ヲ賞ス

アトリ 花雞

深山ニ産シ

秋ノ末ニ多

ク群飛シ

「カハラヒ」等ト同シク来ル



冬春ノ際夥シク群  
飛シ来ル「ア」リ越  
ノ末ニ  
紅點アルヲ「ヒ」レシヤクト云ヒ  
黄色ヲ交ルヲ「キ」レシヤクト云フ

カハセ

常ニ河流

ノ邊ヲ徘徊

シ水中ニ泳

リテ魚ヲ捕食ス



ムクドリ

白頭翁

村里原野ニ多シ其巢ハ  
樹上ノ空洞中ニ營ム



フウテウ 霧鳥



カラス 慈鳥

隨所ニアリテ  
人ノ能ク知ル  
所ナリ又鳥鴉カラス  
ト云フアリ



カケ、ギ 鵲

鴉ニ似テ小ク  
背ニ白キ所アリ  
兩策ニ産ス故チクヲラシ  
トモ古ク其聲鴉ニ似テ低シ



カケス 又カレドリ

山林ニ棲キ秋ホ  
羣リ来ル風鳥  
養ヒテ人語ヲ  
擬セシムベシ



第四目

鷄類

四指又稀ニ指イ者アリ其頭ニ赤冠ヲ戴ク  
者アリテ多ク其毛羽ハ文采美麗ナリ翅短  
ク遠ク飛翔スル能ハス多クハ距アリテ性闘ヲ好ム又距  
ナキ者アリ穀果小蟲及植物ヲ食フ能ク地ヲ掘リテ身ヲ  
埋ム此類食用ニ供スヘク又卵ヲ生ムト多ク最人用ヲナス

ライテウ 松鷄

加賀ノ白山水曾ノ  
御嶽其他高山ノ  
樹中ニ棲ム村里へ出ルトナ  
シ冬月ハ全身白色トナル



ウヅラ 鷄

原野ニ棲ム其聲  
ヲ愛シテ籠  
養スル人多シ



孔雀  
元來凡哇産ナレドモ久シク  
本邦ニ傳ハレリ其毛羽ノ美  
麗ナルニヨリ人ニ籠養セラ  
ル



キジ 雉

山林原野ニ多シ  
脚ニ距アリテ  
能ク闘フ



山地ニ産ス  
毛羽美麗ニシテ  
其尾頗ル長ク殆  
ト身ニ三倍ス  
ヤマドリ  
鶉雉



人家ニ畜養  
スルコト及ヒ  
品類ヲ多ク  
コト人ノ知  
ル所ナリ



ニハトリ  
キレバト鳩  
隨地ニ  
産シ  
テ好  
ク殺  
ラセ  
ル  
食ス  
養  
ハ常ニ人ニ  
イハバト鳩  
毛色數様  
ナリ



第五目 走類

脚長クシテカアリニ指又三指ノモノアリ翼ニ翅羽ナク  
飛翔スルコト能ハズ唯疾走スルノミ植物ヲ食フ此類甚ク  
シ而シテ鳥類中最大ナル者ナリ

ダテウ 駝鳥

亞非利加ニ産ス脚ニ二指アリ  
其力最モ強ク疾走ス其毛羽ヲ  
以テ笠帽ノ裝飾トス



天梁館

ヒクヒドリ 食火鶏

凡哇波羅澳大利等ニ産ス脚ニ三指  
アリ食火鶏ト稱スレドモ實ニ火ヲ  
食スルニハアラズ



第六目

涉類

脚ハ身ヨリ長ク稀ニハ蹠ヲ具スルモノアリ頸及ヒ嘴  
ノ長キモノ多シ常ニ池沼河邊ニ在リテ小蟲小魚爬蟲及  
ビ穀物等ヲ食フ飛翔スルコト迅速ナリ



ツル 鶴

ア子ハヅル  
水邊ニアリテ  
小魚ヲ捕リ  
食フ



今波ニ圖ス  
ト稱スルモ



ミラサギ 鷺

池沿水澤ノ  
邊ニアリ  
テ小魚ヲ  
捕リ食フ此他品類尚多シ



ゴ年サギ  
此鳥ハ夜中  
ノミ飛翔ス  
殊ニ池沼ニ  
アリテ魚蝦ヲ捕食ス



堂社ノ屋上或ハ喬木ノ枝ニ巢ヲ  
營ム好テ爬蟲ヲ食フヨク嘴ヲ  
打チ鳴ラシテ聲ヲナス真ノ  
音聲



其性  
鷺ニ同シ其  
嘴扁潤  
匙状ヲナス故ニ其  
名アリ



常ニ江海ノ邊  
アリ冬月最多  
ク群ヲナ



今致ニ圖スルモノハ  
オホトドリト稱スル者ナリ

鷺ヲモ「ミヤコドリ」  
ト稱スル此鳥  
ハ水鳥ニ  
テ鷺ノ屬ニアラス



水田ニアリテ  
小蟲等ヲ食フ  
品類甚多



クヒナ

秧雞

コバン 田鶏

藪澤ノ内ニ  
多シ夏ノ夜  
鳴ク其聲戸ヲ  
敲クガ如シ



足趾ノ兩方ニ  
膜アルヲ以テ  
游泳自在  
ナリ其嘴



上ニ凸起アリ

第七目

游類

頸ハ脚ヨリ長ク嘴扁ク或ハ尖リ或ハ扁狭ナリ身ニ絨毛  
アリテ脚短ク多クハ後部ニアリ蹠アリテ自在ニ水ニ游  
泳ス此類中秋来リ春去ル者アリテ食用ス、キモノナリ

ニホ 又ムグリ 鵞鵝

池沼ニ棲ミ水ニ游

泳スルヲ甚ク巧ナリ

其巢ハ水上ニ於テ

枯木枯葉等ヲ以テ營ム



ウナウ

奥州外ヶ濱又北海

道ニモ棲ム此鳥

古歌ニ出タル

ヲ以テ大ニ有名ナリ



水中ニ泳リ魚ヲ捕

ルヲ巧ナルヲ以

テ漁人之ヲ馴養

シ繩ニ繫

キテ香魚ヲ



ウ 鵞鵝

アヒサシ

大サ鵞程ニシテ燕ノ

形ニ稍似タリ洋海上

ニ飛翔シ陸地ニ来

ルヲナシ大小二種アリ



カモメ 鷗

常ニ江河ノ水上ニ  
ニ泛ヒ波ニ隨テ去  
来ス又「ヤコドリ」トモ  
云フ又別ニ海鷗アリ



アホウドリ 信天翁

江海ノ大鳥ニ  
シテ其肉ニハ  
惡臭アリ食  
フニ堪エス



ハクテウ 鵞

秋末ヨリ池沼  
ニ来ル羽毛  
純白ニシ  
テ壯觀ナリ



ガシ 雁

秋来リ春去  
ル品類多シ其  
飛フ時ハ斜ニ列  
ヲナス世ニ之ヲ雁  
行ト云フ



カモ 鳧

秋来リ春去ル  
一雁ニ同シ又  
鴨ハ人家ニ養ヒ  
食用スル所ナリ



カモ 雁

其来去鳧ニ同  
シカ形亦似テ  
小サシ多ク群  
ヲナス



カモ 鴨

来去鳧ニ同シ又  
越年スル者アリ  
巢ハ樹上ニ營ム  
伊勢國ニ来ル一殊ニ多シ



アイサ 鴨

鳧ニ似テ嘴細ク  
尖リ両端鋸齒ヲ  
ナシテヤ、齒ニ  
似タリ来去大抵鳧ニ同シ





○凡ノ動物ノ真圖ハ之ヲ植物ニ比ブレバ甚難レ故此冊  
 子中ノ諸圖ハ勉メテ原圖ヲ描寫シ其形態ヲ失ハザラレ  
 ムト雖モ此舉ヤ初卷ノ凡例ニ云ルカ如ク書肆ノ促責急  
 ナルヲ以テ編纂頭倉卒ナレバ自ラ謬誤ナレトモ然レ  
 凡各圖中偶註解ノ活用ヲ表ヒンガ爲ニ意ヲ加ル者アリ  
 即麒麟ノ如キ文中樹葉ヲ折食スル語アルカ故ニ予カ藏  
 スル新始書中ノ圖ニ據テ其狀ヲ撰寫シ又食肉部中犬獬  
 ノ如キ多クハ口ヲ開キテ舌ヲ出サレ人是其性アルヲ示  
 スナリ或ハ二種ノ雀ヲ二分畫ニ分ツ等性々原圖ノ如ク  
 ナラザル者アリ者請フ之ヲ諒察セヨ  
 編者誌

獸類一覽ノ字引

骨骸 <small>ツツガイ</small> オホボネ 堅實 <small>ウツクシ</small> カタク	行走 <small>カウソウ</small> アルキ	遊泳 <small>ユウエイ</small> オヨギ	裸體 <small>ハダカ</small> ハダカ	呼吸 <small>キョウキ</small> キヨク
乳哺 <small>チホ</small> チホ	人類 <small>ジン</small> ヒト	省略 <small>セイリョク</small> ハブキ	所産 <small>ショサン</small> トコロ	猫豚 <small>ネコブタ</small> ネコ
船齋 <small>フネニテ</small> フネニテ	人口 <small>クワイシ</small> クワイシ	繪炙スル <small>エビヤク</small> エビヤク	訓蒙 <small>クンモウ</small> コトモニ	助 <small>イッジョ</small> イッジョ
一四手類 <small>イツシテ</small> イツシテ	即 <small>トウ</small> トウ	獼猴 <small>ヒコウ</small> ヒコウ	四肢 <small>シシ</small> シシ	レヤウ
蘇門答刺 <small>スモタ</small> スモタ	波羅 <small>ハラ</small> ハラ	機力 <small>キカ</small> キカ	サル	技藝 <small>ギギ</small> ギギ
馴ル <small>ナ</small> ナ	テナガ	印度 <small>イン</small> イン	寂温柔 <small>シツオンニウ</small> シツオンニウ	ヲナカ
亞非利加 <small>アフリカ</small> アフリカ	亞米利加 <small>アメリカ</small> アメリカ	二第翅手類 <small>ニテイテ</small> ニテイテ	琉球 <small>リウキウ</small> リウキウ	小笠原島 <small>オガサハラ</small> オガサハラ
手指 <small>テ</small> テ	伸テ膜アリ翅 <small>ノ</small> ノ	琉球 <small>リウキウ</small> リウキウ	小笠原島 <small>オガサハラ</small> オガサハラ	果實 <small>クワシツ</small> クワシツ

博物志 卷之三

字引

三十一

二八





ラカ 亞刺伯 肉鞍 西伯里 羚羊

頸 樹枝 シカ 革 カイ 犍 羊

皮 羶 毛 土 ヤギ 毛 羶 ヒツシ 絨 毛 艾り

羅紗 毛布 ウシ 牽駄 乳汁 單蹄 種子鳥

乘駕 騾馬 ウシ ウシウマ 種子鳥

暴悍 多蹄 厚皮 汚穢 柔馴

蠢愚 天竺 亞弗利加 柔馴

厚堅 傷 犀角 海魚 魚

悲鳴 剛 齒 鯨魚 海獸

上頸 袋獸 鬚 澳大利 鳥嘴

鳥類一覽ノ字引

總論

第一階位

卵生 温暖 全體 羽毛 被リ 二翅 三脚

堅硬 嘴 食餌 啄 踏 稀ニタマ 下部

糞孔 氣中 飛翔 疾走 游泳 比スレバ

速ナリ 鷲鳥類 鐵鉞ニ堪ル 愛玩 先哲

嘗テ 其類ヲ大別シ 七目 童蒙 中外ノ産

著明 若干ヲ擧テ 略説 ハナレ 異ル 著者

區郭内 隨意 之ヲ比例スルニ 驚鳥類 顔面

第一目食肉類 鷲鳥類 顔面

嘴孔 銳利 密生 屍肉 畫間 夜間

鳥類一覽ノ字引

博物類聚 卷之三

オホカ 此類 數種 遊獵 通知 隨地

市井 敗棄 魚肉 隠ル 深山 海邊

ミサゴ 捕り食フ 其貯蓄 多ハモノ 鷲ノ 稱ス

夜間捕食 枝間 隱ル 養テ 馴レ 易シ

其聲喚ブ 之ヲ忌ム 亞グ 攀登 成行 便

第二目 緣木類 脚 亞グ 攀登 成行 便

蠢蟲 果實 轉ル 機關 一種人語 便

熱帶地方 各種美麗 拳養 ヤレナヒ アウム 產地

首夏ノ頃 飛鳴 巢 産ウ 彼ウ 彼レ

村里 慈悲心 第三目 唱類 群飛 管ム

最巧 穀果 聲音 清明 尋常 橋ニ泥

レキ 揺ス カスヒ 薄暮 ガケレ 樹幹 ヲ

舶齋 清亮 機ヲ織ル ソクニ 毎秋 アキニ

ヒス 叢林 立春ノ候 曳テ轉ル 籠養 諸鳥ノ音

寒ニ耐 黄毛 戴ク カブル 杉ノ實 美聲 絶崖

圓ク 虫 蛙 カハツ 樹刺 貯テ 非常

ガラス 顔ル ガラマ 技藝 ヒバリ 原野 氷

鳴聲 ヲエ イスカ 齧齧 諺 スメ 臭氣

豆粒 嘴中 廻轉 カス ソソ 嘯ク 賞

冬春 際 アハルノ 紅點 河カハ 流ノ邊 徘徊

車 勿 受 言 三 字 引 ノ 四

下リ

空 <sup>クウ</sup> 洞 <sup>ドウ</sup>	東 <sup>トウ</sup> 印 <sup>イン</sup> 度 <sup>ド</sup>	馬 <sup>バ</sup> 路 <sup>ロ</sup>	古 <sup>コ</sup> 島 <sup>シマ</sup>	石 <sup>シ</sup> 地 <sup>チ</sup>	カ <sup>カ</sup> リ <sup>リ</sup>	ヤ <sup>ヤ</sup>	兩 <sup>リウ</sup> 筑 <sup>チク</sup>	鏡 <sup>キョウ</sup> 前 <sup>ゼン</sup>	カ <sup>カ</sup> ケ <sup>ケ</sup> ス	擬 <sup>ギ</sup>
第四目鷄類	赤 <sup>セキ</sup> 冠 <sup>クワン</sup>	文 <sup>ブン</sup> 采 <sup>サイ</sup>	脚 <sup>キョウ</sup>	闘 <sup>トウ</sup>	堀 <sup>ホリ</sup>	里 <sup>リ</sup>	畜 <sup>チク</sup> 養 <sup>ヤウ</sup>	カ <sup>カ</sup> イ <sup>イ</sup>	キ <sup>キ</sup> ン	バ <sup>バ</sup> ト
白山御嶽	爪 <sup>ツメ</sup> 哇 <sup>ワ</sup>	本 <sup>ホン</sup> 邦 <sup>ポウ</sup>	籠 <sup>ロウ</sup> 養 <sup>ヤウ</sup>	疾 <sup>シツ</sup> 走 <sup>ソウ</sup>	ダ <sup>ダ</sup> テ <sup>テ</sup> ウ	笠 <sup>カサ</sup> 帽 <sup>ボウ</sup>	躑 <sup>チツ</sup> 躑 <sup>チツ</sup>	爬 <sup>ハイ</sup> 虫 <sup>チュウ</sup>	高 <sup>カウ</sup> 木 <sup>ボク</sup>	迅 <sup>シン</sup> 速 <sup>ソク</sup>
第五目走類	翼 <sup>ヨク</sup> 翅 <sup>セウ</sup>	羽 <sup>ウ</sup>	疾 <sup>シツ</sup> 走 <sup>ソウ</sup>	疾 <sup>シツ</sup> 走 <sup>ソウ</sup>	躑 <sup>チツ</sup> 躑 <sup>チツ</sup>	爬 <sup>ハイ</sup> 虫 <sup>チュウ</sup>	高 <sup>カウ</sup> 木 <sup>ボク</sup>	迅 <sup>シン</sup> 速 <sup>ソク</sup>	迅 <sup>シン</sup> 速 <sup>ソク</sup>	迅 <sup>シン</sup> 速 <sup>ソク</sup>
第六目汝類	水 <sup>スイ</sup>	火 <sup>カ</sup>	鷄 <sup>キ</sup>	魚 <sup>イサ</sup>	蝦 <sup>エビ</sup>	魚 <sup>イサ</sup>	蝦 <sup>エビ</sup>	魚 <sup>イサ</sup>	蝦 <sup>エビ</sup>	魚 <sup>イサ</sup>
第七目游類	水 <sup>スイ</sup>	火 <sup>カ</sup>	鷄 <sup>キ</sup>	魚 <sup>イサ</sup>	蝦 <sup>エビ</sup>	魚 <sup>イサ</sup>	蝦 <sup>エビ</sup>	魚 <sup>イサ</sup>	蝦 <sup>エビ</sup>	魚 <sup>イサ</sup>

文部省同濟 明治九年四月六日  
出 版 同 年十月廿日

版主

京都府士族

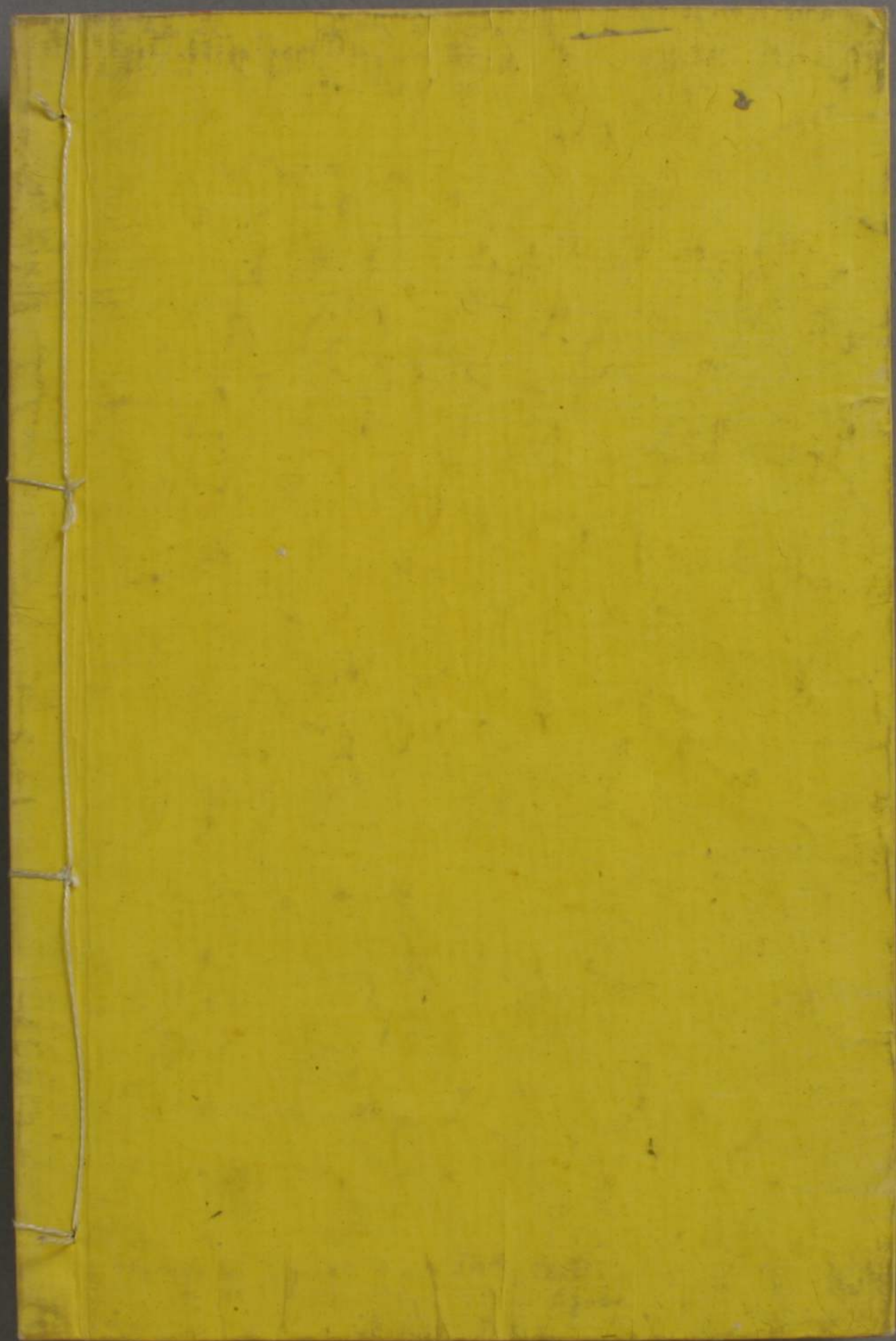
片山 淳吉

東京下谷什徒町壹丁目  
并三番地寄附

發兌書肆

東京馬喰町貳丁目書番肆

森屋 治兵衛



明治九年第七月

田中芳男 撰  
片山淳吉 參解

卷三

文部新刊  
小學懸圖  
博物教授書

東京書肆

錦森堂發兌



湖山

山

山

山

定價拾八錢